

[話題提供名] 西湖におけるクニマス推定資源量の動向

[要約] 2024 年秋時点でのクニマスの推定資源尾数は 11,456 尾となり、前年よりも増加し、2012 年の推定開始以降では 3 番目に高い値である。

[担当] 山梨県水産技術センター・増殖スタッフ・平塚 匡

[分類] 研究・参考

[課題の要請元] 食糧花き水産課、西湖漁業協同組合、富士河口湖町

[背景・ねらい]

西湖におけるクニマスの保全を図るため、これまでにその生態や生息環境、産卵実態等に関する調査を行っているところである。本調査ではクニマス保全の基礎的知見となる資源量を推定し、その動向を継続的にモニタリングするとともに、現況等を評価する。

[成果の内容・特徴]

1. 2024 年秋の推定資源尾数は 11,456 尾となり（1 歳以上、寿命 6 歳とした場合）、2012 年の推定開始以降、3 番目に高い推定値となっている（図 1）。
2. 2025 年秋の試験採集においては、クニマスの採集比率が 14.5%（クニマス尾数 /（クニマス + ヒメマス尾数））、採集者の 1 時間当たりの平均釣果が 0.33 尾 / 人 / 時間と、前年度（27.6%、0.58 尾 / 人 / 時間）に比べ減少している（図 2、3）。
3. 2025 年のクニマスの採集比率及び平均釣果はいずれも 2024 年より低い数値となっているが、2012 年以降で見れば年変動の範囲内と考えられる（図 2、3）。
4. 2025 年秋の推定資源尾数は、2026 年春漁期を含めた総釣獲尾数を用いて算出するため、現時点では資源動向等の評価はできない。

[成果の活用上の留意点]

- ・クニマスの推定資源尾数はヒメマスの推定資源尾数にクニマスの採集比率を乗じて得られる、あくまで目安レベルの概算値である。
- ・ヒメマスは資源量の年変動が大きい魚種であることが知られていることから、近縁種であるクニマスにおいても類似した傾向を示す可能性がある。

[期待される効果]

西湖におけるクニマス資源量の概況を継続的にモニタリングすることで、保全を図る上での基礎資料となる。

[具体的データ]

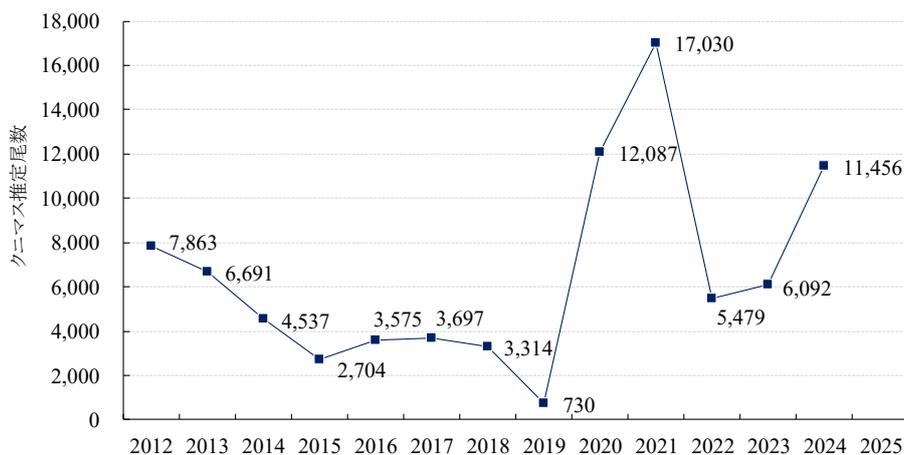


図1 クニマス推定資源尾数の推移
(1歳以上、寿命を6歳とした場合)

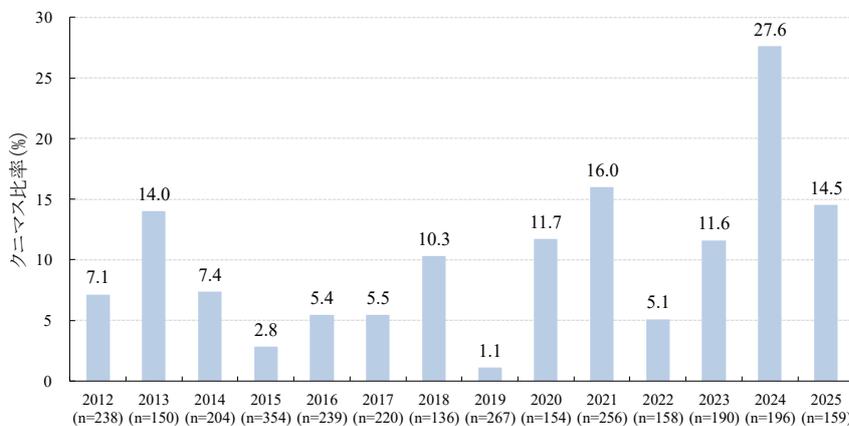


図2 試験採集魚中のクニマス比率

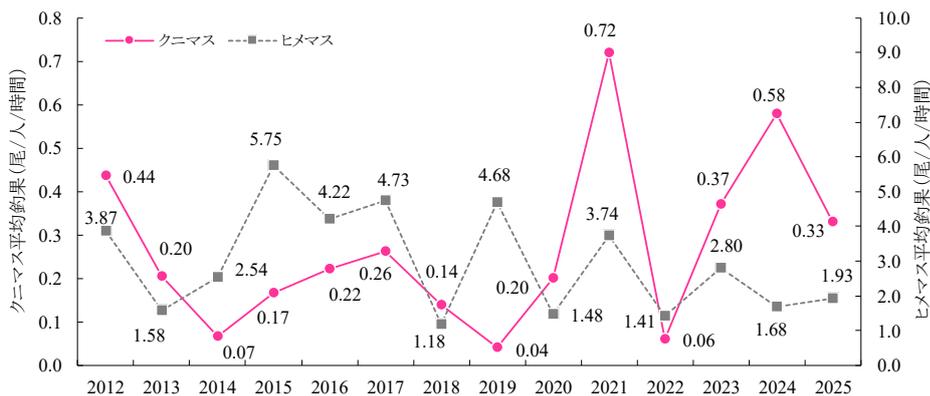


図3 試験採集時のクニマス及びヒメマスの平均釣果の推移

[その他]

研究課題名：クニマスの保全と養殖に関する研究

予算区分：県単

研究期間：2022年度～（先行研究2012～2021年度）

研究担当者：平塚 匡、小澤 諒、名倉 盾、高田芳博（秋田県水産振興センター）